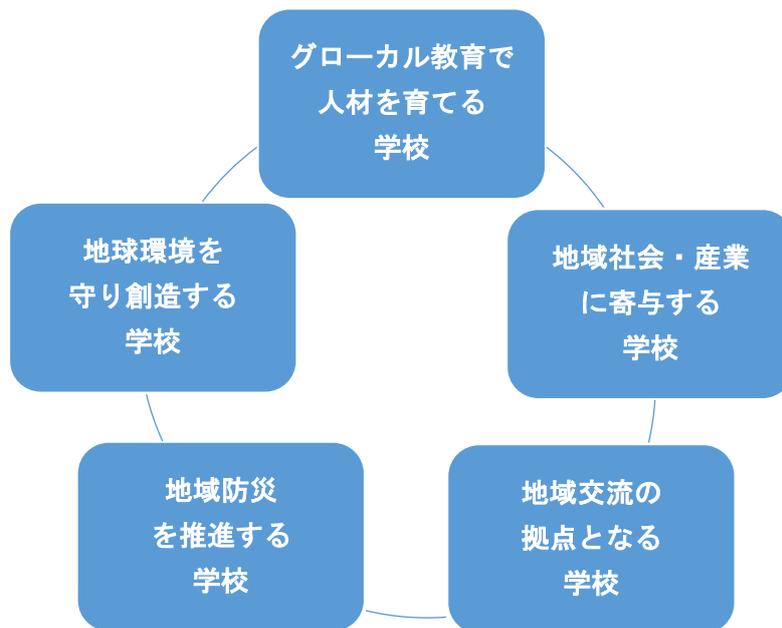


アクションプランについて（全国農業高等学校長協会）

実施開始 平成30年（2018年）7月
検証開始 令和2年（2020年）10月
目標達成 令和4年（2022年）3月
新プラン 令和4年（2022年）4月

1 次の5つの基本方針（目指す学校像） 長野県須坂創成高等学校

農業高校のミッション



2 10の行動計画 長野県須坂創成高等学校

5つの基本方針を具現化するために、10の行動計画を定めました。
我々農業高校は、以下に示す行動計画に従って具体的な行動を起こしていきます。

No	行動計画	キーワード
1	「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います	アグリマイスター顕彰
2	「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います	グローバル教育
3	「地域農業の生産を支える」教育を行います	生産技術・経営
4	「地域の農業関連産業や6次産業に寄与する」教育を行います	地域産業貢献・6次産業化
5	「地球を守り創造する」教育を行います	環境技術・創造
6	「食農」教育を推進します	食農教育
7	「地域資源を活用する」教育を行います	資源活用
8	「地域交流の拠点となる」教育を行います	ヒューマンサービス
9	「各種農業関係機関・団体と連携した」教育を行います	地域連携
10	「地域防災を推進する」教育を行います	地域防災

3 本校における「10の具体的実践」 長野県須坂創成高等学校

実践1「生徒一人一人を一層輝かせ成長させる」教育を行います

学習活動、農業クラブ活動などを通して生徒一人一人の特性と可能性を見つめさせ、積極的な資格取得と各種コンテスト参加を行う。その成果としてアグリマイスター顕彰に結び付ける。

実践6「食農」教育を推進します

農産物を生産する立場から加工・販売・消費について考え、世界的な食品消費の現状を日本の現状と比較しながら食農について考え深める。

実践2「世界と日本をつなぐグローバル」教育を行います

変動する国際社会に目を向け、食料供給の視点から農産物の生産・流通や世界の食糧事情について理解を深め、日本農業の今後と農業を学ぶ高校生の目指すべき姿について考え、第1次産業である農業をグローバル教育の視点からとらえる

実践7「地域資源を活用する」教育を行います

地域の伝統野菜や伝統文化・技術などについて学ぶことにより、地域発展に向けその資源の活用方法などについて考え、地域に発信する。

実践3「地域農業の生産を支える」教育を行います

地域の農業事情や特産となる農産物について学習し、地域の農業後継者や従事者となるための知識と技術の習得を行うとともに、6次産業化に向けた経営感覚を身に付けた農業について考える。

実践8「地域交流の拠点となる」教育を行います

生徒が地域の小学生などと一緒に農業体験を行うことや地域イベント等を通して、農産物を生産・加工・販売することの意義と重要性について学び、ヒューマンサービスの在り方について理解を深める。

実践4「地域の農業関連産業や6次産業に寄与する」教育を行います

農業改良普及センターと連携を図りながら、農業経営者協会との交流により経営的な視点に立った作物栽培や経営方針などについて学び、農業経営者感覚の醸成を図る。

実践9「各種農業関係機関・団体と連携した」教育を行います

農業大学校、農業改良普及センター、JA、市役所などと連携を図りながら、先端技術の研究分野について学習し、6次産業化へ向けた取り組みやその可能性について学習する。

実践5「地球を守り創造する」教育を行います

食料残渣と農薬使用量の削減、土地の緑化推進を図り、持続可能な農業生産や地球環境の在り方について考えられる人材を育てる。

実践10「地域防災を推進する」教育を行います

森林や農地など第1次産業の持つ多面的な機能について学習を深め、国土保全、環境保全のみならず地域防災の観点について考える。